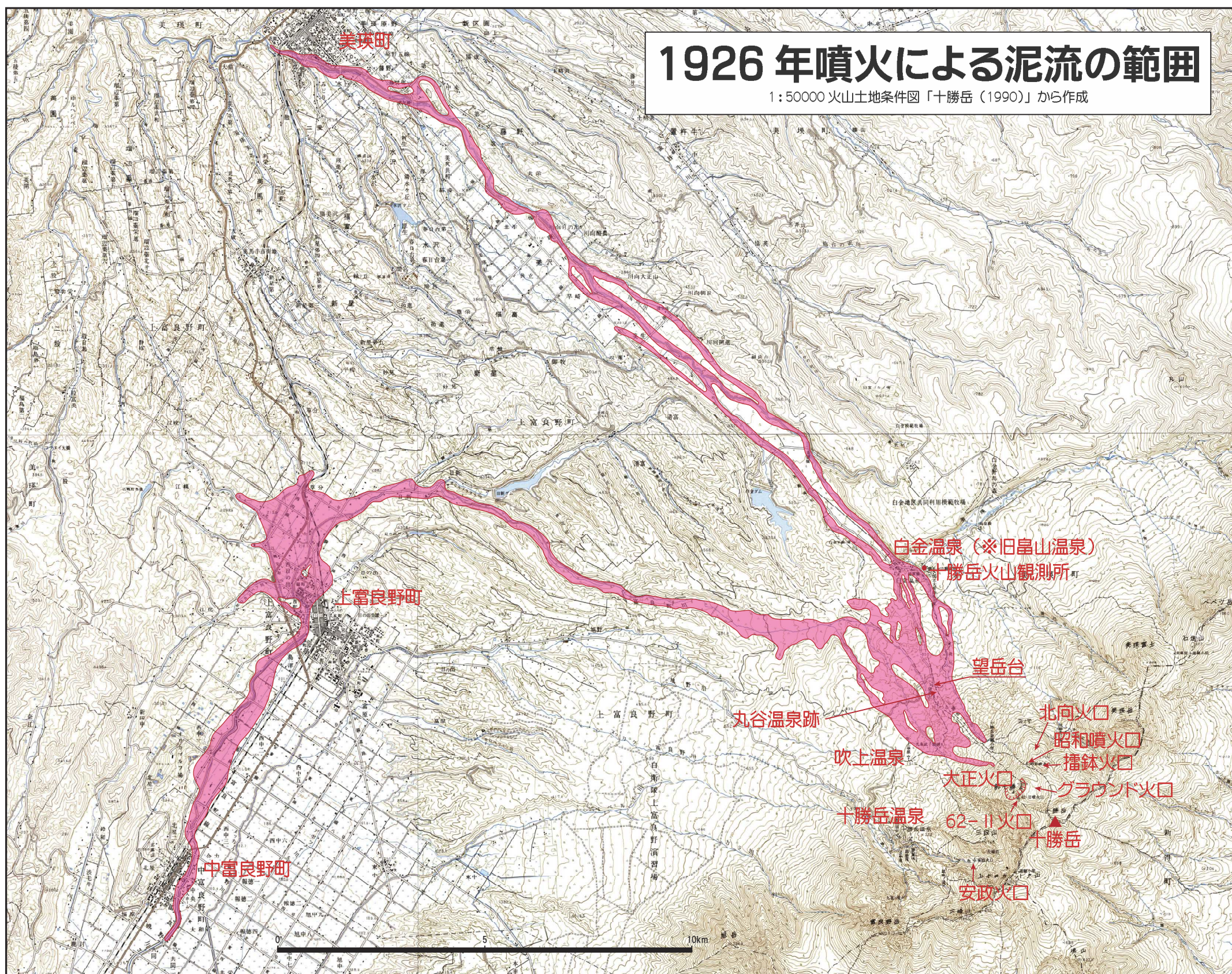


1926 年十勝岳噴火

十勝岳 2077m

北海道のほぼ中央に位置する十勝岳は、有史以来しばしば大きな噴火を引き起こした記録があります。最近では、1926 年（大正 15 年）、1962 年（昭和 37 年）、1988 年（昭和 63 年）に大きな活動がありましたが、噴火地点はいずれも頂上のすぐ北側斜面に集中しています。

1926 年 5 月 24 日の十勝岳噴火では、中央火口丘が崩壊して発生した高温の岩屑なだれにより、周囲の残雪が融けて大規模な泥流となり、温泉や鉱山施設をのみ込みながら、爆発後わずか 25 分余りで、火口から 25km 程度にある麓の美瑛町や上富良野町を襲いました。この泥流により、死者・行方不明者 144 名、建物 372 棟、家畜 68 頭などの被害が生じ、日新尋常小学校や上富良野尋常小学校が流出した富良野川流域の上富良野町に被害が集中しました。



望岳台から望む十勝岳



十勝岳山頂



噴煙を上げる 62-II 火口

